

わたしの聖戦

◎◎女性が働くところのついで◎◎ 94

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

男性ファッション誌にみる世相

数多くの女性向けファッション誌が本屋の店頭を飾っている。なぜこんなに種類が多いのかといえば、ひとつには顧客ターゲットを年齢別に細かく分けているからだと思われる。さらに、主婦層とOL、一般的感覚なものとは高級感あふれるもの、という区分もあるから、結果的にやたら多く目につくことになる。

最近では、男性ファッション誌も種類が増えてきた。手に取る機会などなかったが、あるとき立ち飲みワインバーにあった男性誌が目にとまった。見るともなくページを繰ってみてちよつと驚いた。

想像していたとはいえず、内容の構成は女性誌のそれをほぼ踏襲している。

まず、ページの多くが衣服を中心とした流行の紹介で占められている。今風のイケメンたちがポーズを取り、さわやかに微笑みながら、服に合わせたバッグ、靴、小物、帽子などのアイテムを組み合わせた着こなしのコツを紹介する形になっている。

ファッション誌といえども情報誌であるから、それだけにとどまらず書籍や映画の紹介、最近話題になっているショップ、いかに異性にもてるかといったノウハウ、お薦め

ドライブブルートなどなど、たいいていの女性ファッション誌が網羅する内容が男性誌にも掲載されている。差別化のため経済や政治の話題に多少重きを置いたものもあるが、女性誌にも取り上げられる

ワインバーにあった 男性誌が目にとまった



ことはしばしばあることを思うと、その種のお堅い話題もはや男性の専売特許ではないようだ。さすがに、女性誌で大きくページを割く美容関連は少ないものの、皆無ではない。私がたまたま手にとった雑誌には、香

水の付け方講座が熱心に説かれていて興味深かった。これも美容やファッションの一環なのだろう。ちなみに、白いワイシャツをはだけた男性が胸のあたりに香水を付けている写真が大きく載っており、「香水がくどくならないう注釈があった。親切といえば親切、何もここまでしなくても、あきれるといえればあきれる。スポーツマンでも最近は何を整理しているのが常識で、

体育会系という言葉からイメージする汗臭さは今の彼らには感じられない。おしなべてスマートでかっこいい男性が多い。男性誌も増えているから、そこそこ売れているのだらうし、眉のそろえ方や顔の洗い方などもどこか

で特集を組まれてきたのだろう。

こういった傾向をどう考えるかはまさに千差万別だろうが、ある一定の年齢以上になると受け入れがたいものがあるかもしれない。男たるもの、身だしなみを超えたおしやれなど必要ないと言い切る人もある。しかしなかには、これも時代の流れと比較的柔軟にとらえる人もいたりする。さて、いったいどうしたものか。個人的には、おしゃれに没頭しすぎる男性は好みではない。しかし確かに時代には逆らえない。せめて、中年になつたら誰もが口にする「いまだきの若いものは」という台詞を安易に吐いて愚痴っぽくなるのだけはやめたいと自分を戒めている。

イラスト・三浦義雄